



ージですね。分かりやす過ぎる(笑)。未だに悟りのシーンは何ともいえないですね、自分の中で。

◎ 不可視なものを映像にするのは大変難しいと思いますが、私もあの悟りのシーンをご覧になった参禅者の方から「悟りを開くとあなるのですか?!!」と聞かれましたが(笑)、そういう意味ではオカルト的なミスリードになる可能性もありますね。

最後の示寂のシーンはどうですか? 史実の京都ではなく、永平寺の僧堂で亡くなられていますね。

高橋 僕は、坐禅をしたまま亡くなつて欲しかったのです。実は、制作中もあそこが一番物議を醸しましたね。原

作者の大谷(哲夫)さんからも疑義を頂いて話し合いの場を持ちましたが、「あの最後のシーンを撮れなければ監督を降りる」と突っぱねました。大谷さんも宗学の大家ですから、解釈として譲れない部分は結構ありましたよ。細かいところはもう忘れちゃったけれど(笑)。

◎ 曹洞宗としてこの映画の扱いが難しいのはまさにその部分で、創作物として観れば全く問題ありませんが、例えばこれを布教の一助として使うようなことがあると、登場人物も含めてかなりの脚色があり、教義や史実との差異から「取り扱い注意」になりますね。

高橋 そうでしょうね。でも、それは正直「知ったこっちゃない」って思っています(笑)。そういう目的(教義や史実への忠実さや無謬性)がウエイトとしてあるのなら(仕事として)引き受けていません。ただ、道元禅師のステータスを貶めようとは思っていませんよ。仏教も多少勉強しているし、そもそも道元禅師への関心や敬意があつたわけですから。

## 若い世代にこそ、道元さんを伝えたい

◎では鑑賞者のターゲット層は、具体的に想定されたんですか?

高橋 予想としては曹洞宗関係者や檀家さん、そこそこの年齢の人だと思つ

たんですけれど、僕としては若い人たちに見て欲しかったですね。

僕が今一番腹立つてるのは、若い世代に「お前ら『自己中』『自己中心的なこと』を履き違えるなよ」ということ。個人主義は否定しないけれども、彼らは個人主義とは言いません。この前撮った映画なんかは登場人物が全員「自己中」人間。でも映画へ込めた思いはどれも一緒です。

この思いは原作者の大谷さんも同じだと思っけれど、今の日本には宗教特に仏教がないとダメ。日本人はいろんな大切なことを忘れてしまいました。具体的に言うと、助け合いや相手を思いやる心です。「僕はこう思っていたのに、今の若いやつはなんでこう思えないの?」っていうことがいっぱいあります。今の時代にこそ利行、四摂法は大事ですよ。

世界平和は理想だが絵空事だ、とか言われるじゃないですか。それでもいい。そこに向かおうとする思いと行いが大事だと思えますよ。

かつての日本人は当たり前前のごことを知っていました。僕たちの世代は、まだ「弱者をいじめちゃいけない」みたいなことが普段の生活の中で当たり前にあつたんですよ。我々は貧しい時の日本も豊かになった日本も両方知っています。今は不況だけど、それでも豊かな日本の成り立ちに貢献したっていう自負があります。だけど、その豊かさ代わりに犠牲にしたものもあるんですよ。「なんで日本はこんなになつちやっ

んだ? もしかして、こんなにしたのは俺たちの世代か?」って慙愧の念がものすごくあるんです。

「当たり前」のことが分からなくなつてきている現代で、その「当たり前」を知らしめるのに、道元さんが必要なんです。( )内は編集部注

### 映画『禅 ZEN』

2009年1月公開  
監督・脚本◎高橋伴明  
原作◎大谷哲夫  
『永平の風 道元の生涯』(文芸社刊)  
製作◎道元禅師の映画を一緒につくる会  
配給◎角川映画

現在、曹洞宗寺院向けに特別価格でDVDが発売中。お申し込み、お問い合わせは下記まで。  
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-23-6  
グローイン新宿御苑202  
「道元禅師の映画を一緒につくる会」  
電話 03-5368-8189  
FAX 03-5368-8069  
担当者 栗原研一

